

狩野派のおわり、日本画のはじまり

●講師：泉屋博古館東京学芸員 椎野晃史



本多天城《桃李園図》(部分)1幅 個人蔵

江戸幕府の崩壊とともに終焉を迎えた狩野派。御用絵師という身分を失い、生活が困窮した狩野派最後の絵師たちは、やがてお雇い外国人として来日していた一人のアメリカの青年との出会いを通じて、日本絵画の革新運動に身を投じていきます。

この講座では、狩野派の「後日譚」として、近代に生きた狩野派の絵師とその系譜を紹介し、知られざる彼らの作品とその魅力についてお話しします。(講師記)

【講師プロフィール】

椎野 晃史(シノ アキフミ) 泉屋博古館東京 学芸員
 神奈川県生まれ。2012年、学習院大学大学院人文科学研究科修了。福井県立美術館勤務を経て、2020年より現職。専門は近現代日本美術史。主な研究に「芳崖四天王コトハジメ」(『狩野芳崖と四天王 近代日本画、もうひとつの水脈』求龍堂、2017年9月)、「近代白描画をめぐる断章」『大和文華』(135号、大和文華館、2019年8月)、「安田靉彦筆《風神雷神図》考—昭和戦前期における日本美術院の絵画表現について」(『近代画説』第30号、明治美術学会、2021年12月)など。

日本絵画ではとかく流派隆盛期の作品や絵師が注目されますが長い歴史の中では必ず何度かの分岐点があり、その過渡期を支えた才能がなければ伝統は続かなかったはずです。

2017年の「狩野芳崖と四天王—近代日本画、もうひとつの水脈」(福井県立美術館他)という展覧会図録に「芳崖四天王コトハジメ」という椎野先生が書かれた解説があり、四百年あまり続いた狩野派の終着点、狩野芳崖とその四人の高弟たちの知られざる画業が興味深く紹介されています。今回ぜひそのお話を2回の特別講座をお願いしました。時代のはざまに生きた絵師たちによって切り開かれた近代日本画への道のりが見えてくることでしょう。

※録音、撮影、SNSへの具体的内容の投稿はご遠慮ください。

日時 令和5年6月23日、7月21日
 金曜 14:00~15:30

受講料 2回7,000円

お申し込み方法 052-684-5894(tel, fax)

- ↓ ご予約のうえ、下記口座にお振込み下さい。
- ↓ 三菱UFJ銀行 栄町支店 普通預金口座
- ↓ **0160603** 名義:ソフィソフィ
- ↓ または当日ご持参ください。

お申し込み・お問い合わせは



創企舎 ソフィ

460-0007 名古屋市中区新栄2-6-13
 Tel/Fax 052-684-5894 (直通090-8474-6363)
 Emal : soukisha-sophy@gd5.so-net.ne.jp
 URL : <http://s-sophy.com>

創企舎ソフィ 検索

会場案内図

IMY (アイエムワイ) ビル会議室

〒461-0004 名古屋市東区葵3-7-14

地下鉄東山線「千種」駅①番出口徒歩2分
 地下鉄桜通線「車道」駅③番出口徒歩1分
 JR「千種」駅徒歩5分(メルパルク北隣)

